

新税法はどうか響くか

前国会で不成立になつた地方税法案は吉田内閣の面子にかけても通過させたいという下心から過激の参議院選挙に血眼になつたものの期待通りの成果上らず、遂には緑風會や民主党議員の抱き込みさえも書案したといわれた第八国会は白熱的な論議と修正を重ねて遂に地方税法を可決したがこの新法が農村にどう影響を與えるか、

単作農家に重税

改正地方税の實 二倍乃至三倍の負担増 加になるところもあり この対策は生産米價の大幅引上げに依り、納税負担の軽減に努むるが、動乱に伴う繊維類の値上げで、再び食糧や桑の需要が急増して來たので、果實業者は早くも浮き腰になつてゐる。

倒壊寸前の漁村

法人團體に属し 漁業の不振が原因で、漁村の倒壊寸前である。漁業の不振が原因で、漁村の倒壊寸前である。漁業の不振が原因で、漁村の倒壊寸前である。

名杏會々長 會田先生に呈す

たかせ。かすみ なたか先生と逢ひし なたか先生と逢ひし なたか先生と逢ひし

食前 食後

なたか先生と逢ひし なたか先生と逢ひし なたか先生と逢ひし

告知板

小名濱第二校校庭 整備 小名濱町第二小學校PTAでは、當學区内自動車所有者及び各業者と一般父兄の協力を得、十三日(本町、西町)十四日(竹町、須賀町、高山町)十五日(鹿島町、高山町)の三日間校庭設備をする、土盛りトラックがはもとより乗組員にも重大な問題で船の評価が問題となつてゐる、房総沿岸漁業はこのころ不漁続きで銚子地方の揚繰業者は昨秋のさんま漁手がまだ一億九千九百九十九頭で現在四三三三三頭、二三三三三名の漁民が生活保護法を適用され、また房州の大津網は一統當り二、三三三三頭の借金を背負いこんでいる現状に加えて新税の負担は漁村の崩壊に拍車をかけるものと憂慮されてゐる。

延べ一三〇台 小名濱二校に運動具を寄贈

小名濱第二校PTAでは、小學校児童運動具の設備強化に努め、あつたところ、この要望に答へ日星製作所にて時パイプを利用し、縣下に誇るべきチヤングルを作製莫大なる犠牲を拂い第二校の児童に支給するに努むるため去る三十日、長及び助役に要望した。

生活保給金を要望

小名濱町PTA連合會では昨年来町役場當局と接衝中の教職員年金支給方につき十二日町長及び助役に要望した。

せつ盗檢舉さる 犯人は漁夫二名

小名濱町の船主高橋友吉方漁夫、宮内實(二〇)伊藤三郎(二二)大津治三郎(二二)の三名は旋舞の職に就き、十二日小名濱署に檢舉された。

映畫慰安の夕 遺族と未亡人に贈る

小名濱町で映畫館警 兩日映畫ドジャア白野直千賀氏は戦歿遺族に未亡人を慰安す

魚菜市況

南	三〇・二〇圓
西	三二・三〇圓
瓜	三二・三〇圓
ねぎ	七・七〇圓
大根	三・〇〇圓
ごぼう	六・五〇圓
とうもろこし	一・四〇圓
たまねぎ	四・一〇圓
さつまいも	一・九〇圓
とまと	三・〇〇圓
馬鈴薯	一・〇五圓
なす	二・五〇圓
人参	一・八〇圓
さつまいも	一・三〇圓
きゅうり	三・五〇圓
にんじん	三・〇〇圓
かぶ	二・五〇圓
あじ	一・五〇圓

天気概況

十四日は南東の風よき天候朝のうちに雲が多い 海上は南方洋上の熱帯性低気圧の接近に伴ひ荒れのおそれがあるから注意を要す

祝磐城日日新聞創刊

祝磐城日日新聞創刊 祝磐城日日新聞創刊 祝磐城日日新聞創刊

小名濱海上保安部	部長 遠山 武夫	電話四七五番	
食糧配給公團	小名濱支所	所長 高木 忠治	電話四六九番
東北海運局	小名濱支局	支局長 今野 善久	電話三七六番
運輸省第二港灣建設部	小名濱港工事事務所	所長 青山 茂一	電話二一八番
小名濱港務所	所長 濱田 正軌	電話八〇番	
小名濱中學校	校長 鈴木 孝雄	電話二七〇番	
小名濱第一小學校	校長 高木 長年	電話四〇番	
小名濱第二小學校	校長 増子 銀二	電話一八二番	
小名濱第三小學校	校長 水竹 仁	電話三五番	
福島縣統計調査事務所	所長 佐川 濟	電話三八七番	
福島縣食糧事務所	所長 丹 忠義	電話三八九番	
福島縣水産試験場	場長 菅野 健一	電話一六番	
小名濱測候所	所長 佐藤 秀雄	電話五九番	